

後発医薬品の産業構造改革に向けた大臣要請

厚生労働省資料

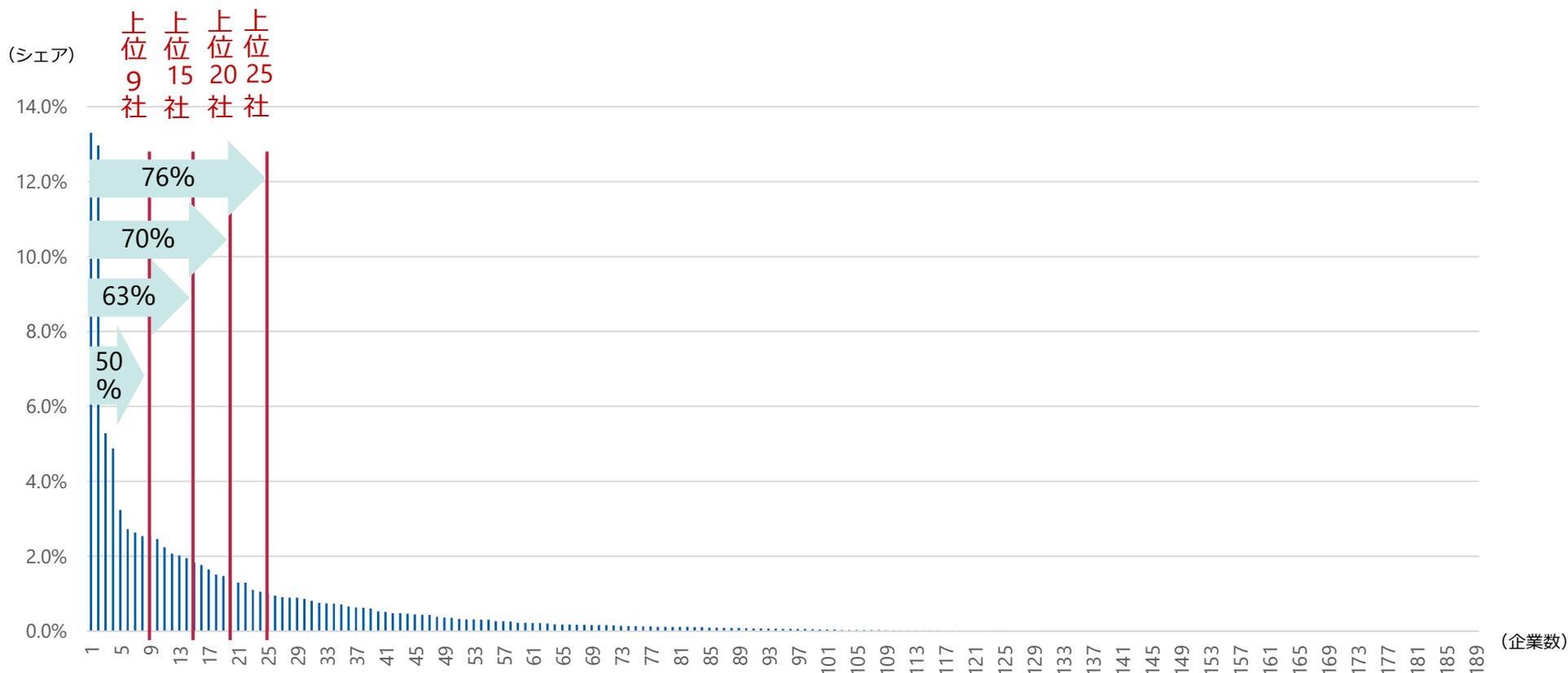
医政局医薬産業振興・医療情報企画課

Ministry of Health, Labour and Welfare of Japan

後発品業界各社の数量シェア

- 後発品業界においては、上位9社が全体数量の半数を製造しており、残りの企業は比較的少量生産となっている構造にある。
- 最も上位の企業のシェアも14%に届かず、多数の企業が低いシェアで競争が激しい状況となっている。

各社の市場シェア（数量）

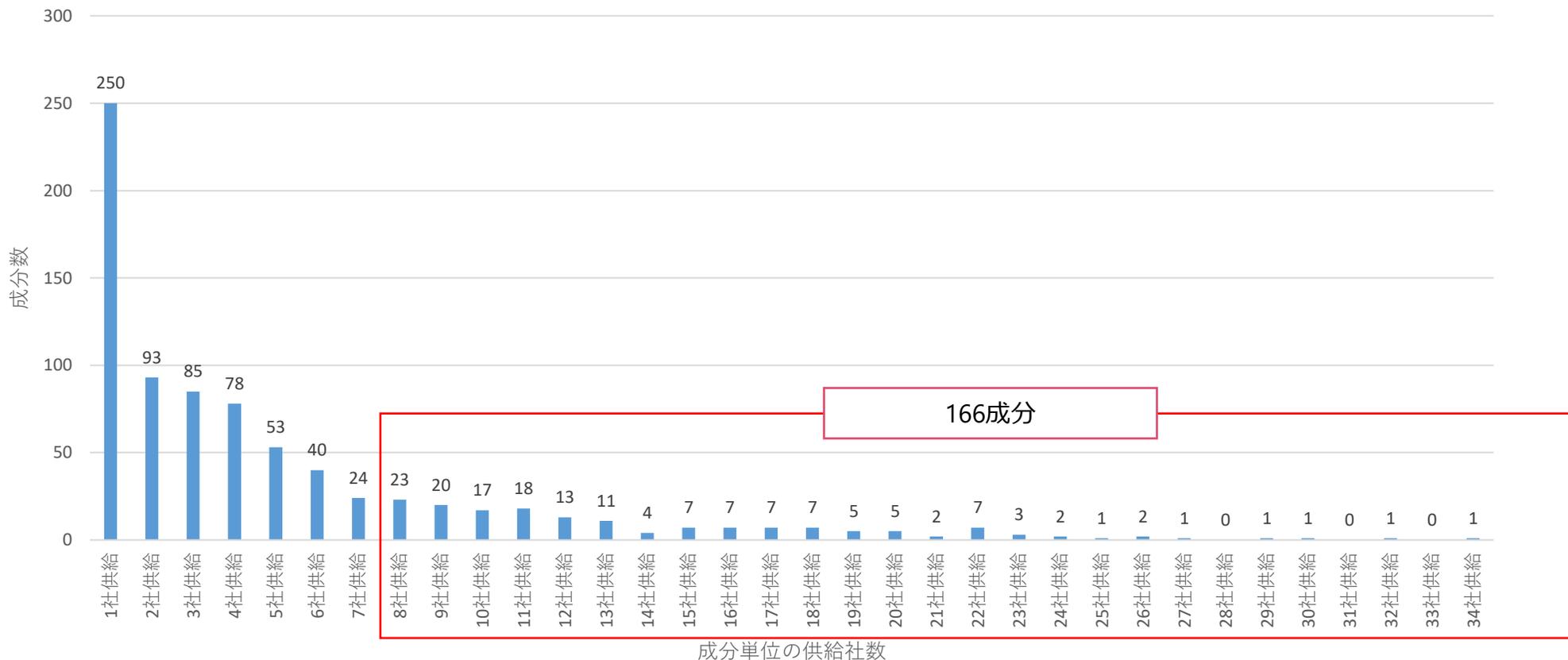


※出典：シェアの数値は令和5年9月薬価調査より、医薬品卸売販売業者から、保険医療機関・保険薬局に対して販売した数量（錠数）から算出したもの。個社販売錠数／全錠数の割合で算出。

後発医薬品の供給社数の状況

- 789成分中、1社しか供給していない成分も250ある一方で、166成分は8社以上が供給しており、供給する社が多ければ多いほど各社のシェアが少なく、競争が激しい状況となっていると考えられる。

図. 供給社数ごとの成分数



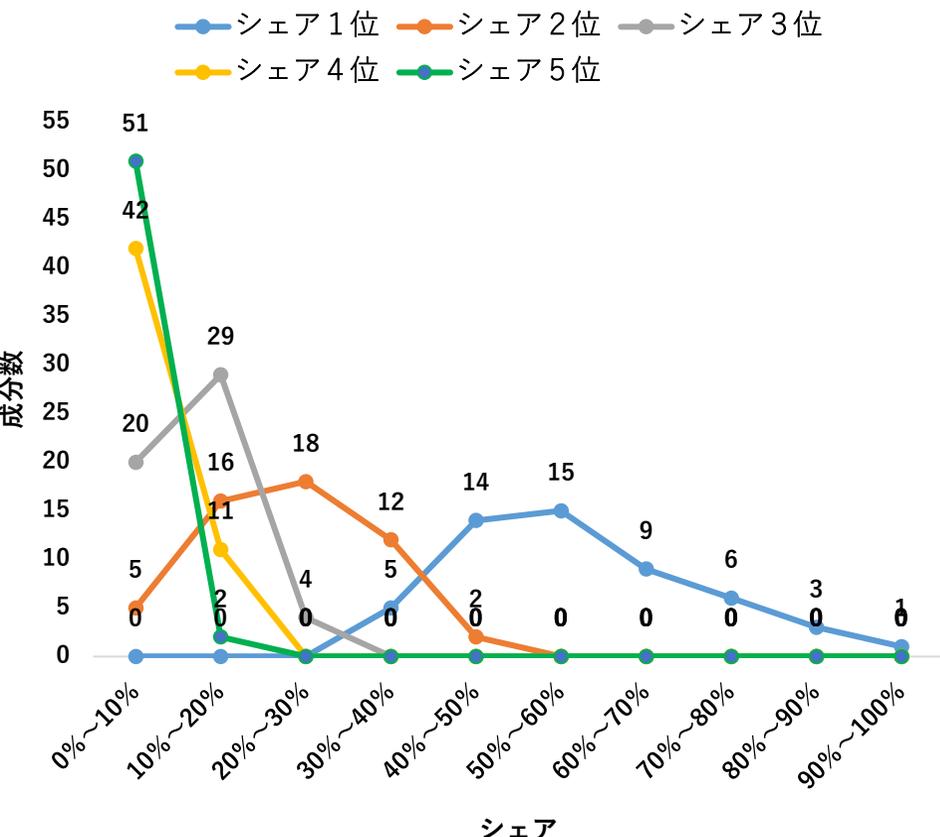
※ X社供給の成分：同一成分について、X社の後発医薬品企業が薬価収載している状況にある成分のこと

※令和5年9月時点で経過措置品目であった品目は除外して集計

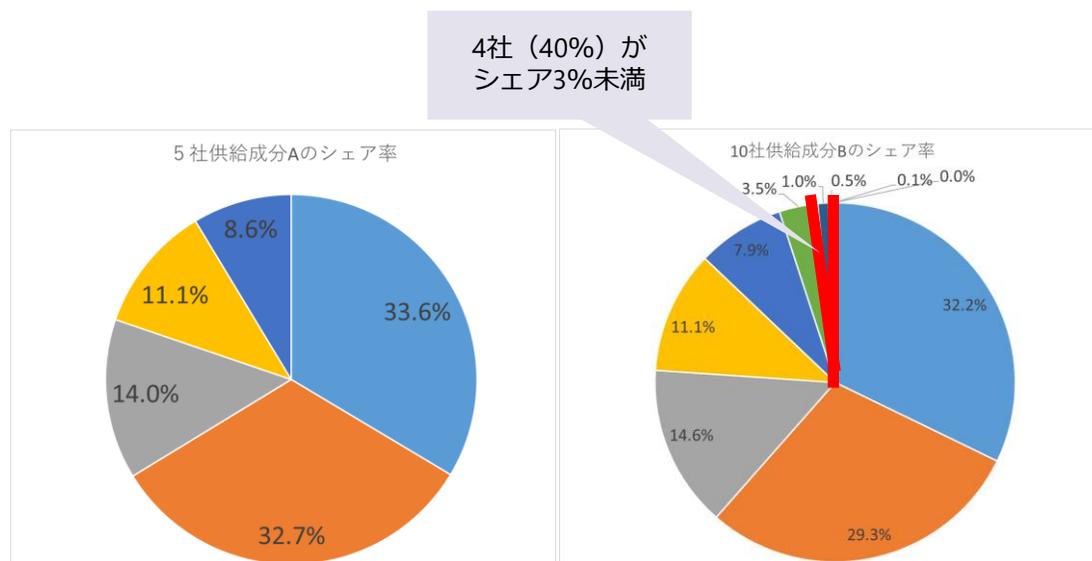
5 社供給成分におけるシェア分布

- ・特に、5社供給となっている53成分について、どのようなシェアになっているかをみたところ、シェア1位の会社は40~60%、シェア2位が20~30%、シェア3位が10~20%等となっていることがうかがえる。
⇒それぞれの成分ごとに5社程度の社が供給する形が安定供給に資するのではないか。

図. 5社供給成分におけるシェア順位毎のシェア



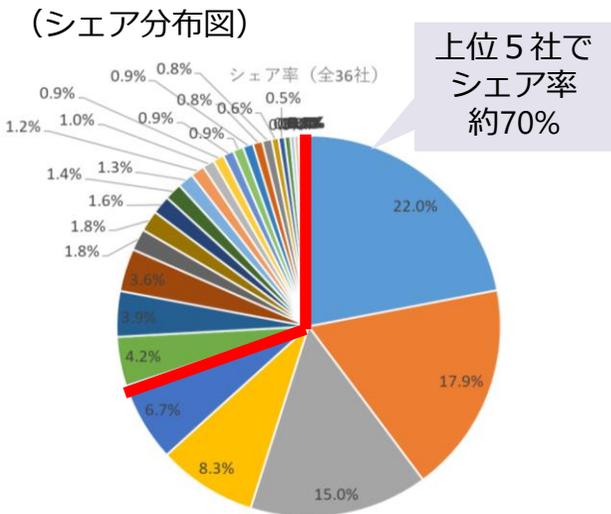
(参考) 5社供給成分A、及び10社供給成分Bにおけるシェア率



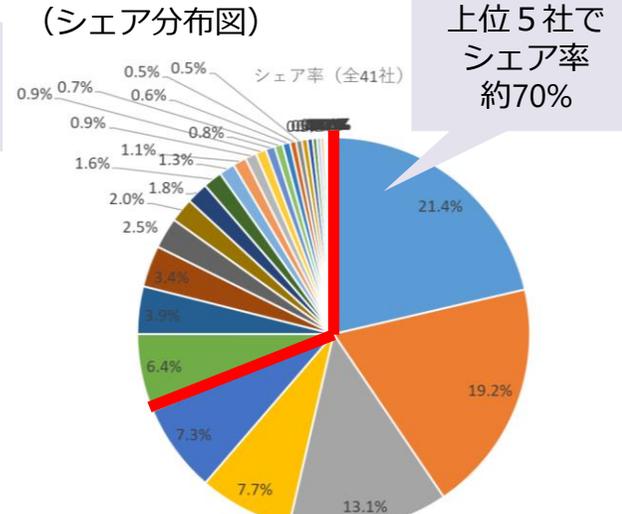
※令和5年9月時点で経過措置品目であった品目は除外して集計

後発医薬品薬効別シェア率 上位企業

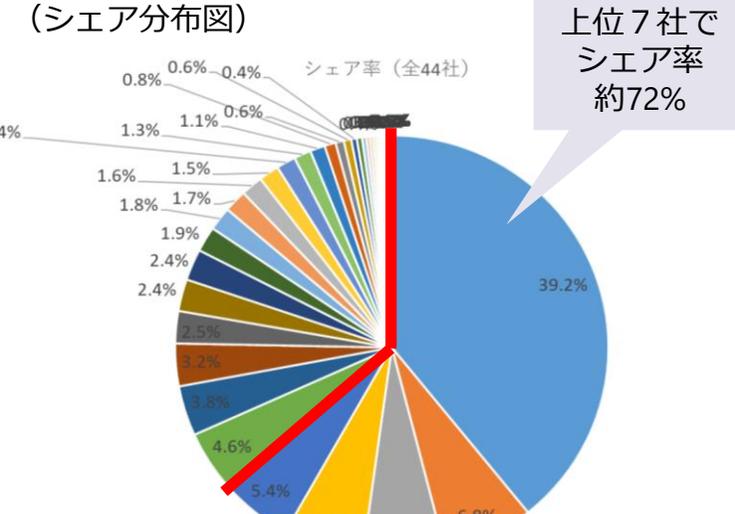
○内用薬 消化性潰瘍剤



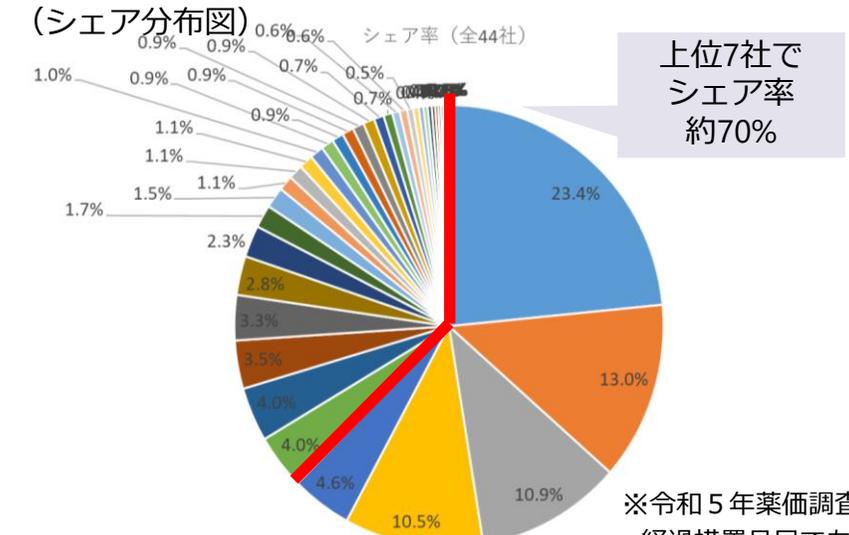
○内用薬 血圧降下剤



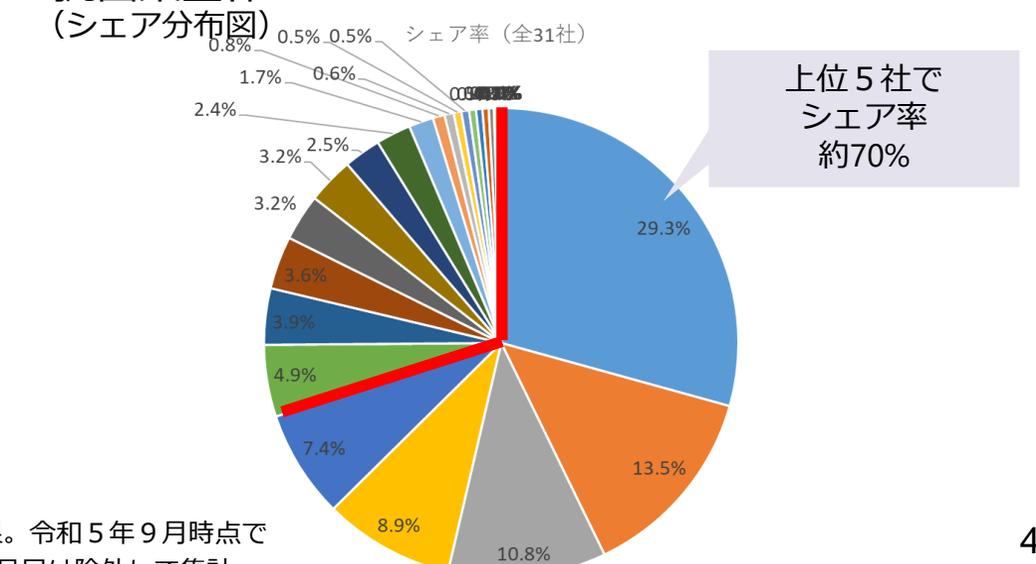
○内用薬 解熱鎮痛消炎剤



○内用薬 精神神経用剤



○抗菌薬全体



※令和5年薬価調査結果。令和5年9月時点で経過措置品目であった品目は除外して集計